

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に全員で唱え、業務にあたり実践している。	理念やスローガンについてはスタッフルームとホールに掲示し、毎朝確認し共有と実践に努めている。家族に対しては利用契約時に説明すると共に「コスモス通信」にも掲載している。職員は理念やスローガンの持つ意味を正しく、十分理解し支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアが来所し、ともに歌を唄うなどすることで楽しんでいる。また地区の子供達が立ち寄りたり、地域行事にも参加している。地域に散歩に出かけている。	法人として区費を納め地域の一員として活動している。新型コロナウイルスの影響で地域のお祭りやハロウィン等の行事、各ボランティアの来訪なども中止になり残念であるが、コロナ収束後にはまた連絡を取り合い再開予定である。そのような中、11月中に専門学校生の職場体験の来訪が予定されている。また、地域の皆様から季節の野菜などの差し入れを頂き、食事に取り入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域包括支援センターにて、介護者の集いや相談会に出席し、理解や啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者にも参加して頂き、生の声も聞いて頂いている。実績、活動報告をもとに、その都度会議内容のテーマを決め意見を頂いている。2ヶ月に一回開催している。	家族代表、区長、地域代表、地域消防団員、民生委員、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。現在は新型コロナウイルスの影響で書面での会議開催となり、利用状況・活動報告、行事予定・事故報告、全体の総括等を書面にて参加メンバーに報告し、ご意見も書面等で頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢者活動支援課の職員、包括、あんしん相談員、民生委員、地域代表の方々に取り組みを伝えながらご意見を聞くと共に協力を頂いている。	市高齢者活躍支援課とは新型コロナウイルス対応等、様々な事柄について相談している。また、地域包括支援センターとは入居者状況等について相談している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行われ、立ち会われる家族もいる。市の介護相談員の来訪がコロナウイルスの影響で中止が続く中、収束後の再開を利用者も楽しみにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待について法人研修で学んでいる。また身体拘束委員会に職員が出席し、ケア会議にて話し合い、職員全員で周知している。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。入居間もない利用者が夕方になると帰宅願望が強くなるケースが見られるが外を散歩したり個々に寄り添い話を伺い対応している。1日を通してホールに1名の職員が必ずいるようにし、きめ細かな所在確認を行うと共に、外玄関入り口は状況に応じて施錠し安全確保に努めている。転倒危惧のある利用者が半数弱ほどおり、家族と相談の上センサーを使用している。2ヶ月に1回、併設の老人保健施設で開かれる身体拘束委員会に職員が出席し、また、ホームのセクション会議の席上で報告も行われ、拘束に対する意識を高め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加し、日常業務の中で虐待とみなされることが起きていないか、職員間で互いに見過ごすことのないようにし、又ケア会議の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回のセクション会議にて、議題として学ぶ機会を設けている。また必要に応じ管理者、職員、関係者と話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時不安のない様説明し、理解、納得を頂いている。ご家族の気持ちも聞き、寄り添う対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時や、行事への参加時にご意見、ご希望などを聞かせて頂き、反映出来る様ケア会議で話し合っている。	ほとんどの利用者が意思表示の出来る状況であり、行動や言葉から思いを受け止め要望に応えるようにしている。11月より新型コロナウイルスの感染拡大に伴い家族面会が行えない状況になっているが、家族から「頑張ってください」との温かい言葉を数多く頂き、職員は日頃の業務により一層励んでいる。また、電話を多く使い家族との連携を深めると共に、担当職員より30日分の日々の様子を記した生活記録と写真を一緒に家族にお届けし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のセクション会議にて、職員からの意見や提案を皆で検討し、ホーム長会議で発表し反映させる機会を得ている。	月1回、夜勤職員を除いた全職員出席でセクション会議を行っている。各委員会からの報告事項、行事予定、利用者一人ひとりのカンファレンス、意見交換等を行い、情報を共有し支援の質の向上に繋げている。また、人事考課制度があり年2回行われる自己評価に合わせ管理者による個人面談を行い、キャリアアップに繋げている。更に、職員のストレスチェックも年1回実施され、メンタルケアにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート、自己評価が年に2回あり、実績や努力を代表者に伝える事が出来ている。また、必要に応じ面談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ、外部研修に参加してもらい、その内容を皆で共有している。法人研修には全職員が出席できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区ネットワークに加入しており、機会を利用し、研修会や取り組みなどの交流がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時より、困っている事、不安に思っている事など本人の気持ちを聴き、安心できる居場所作りに努めながら、職員間で情報を共有し、安心して頂ける関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時より、ご家族の困りごとや不安、ご希望を聴き、ホームで出来る事を伝え、ご家族の協力を頂きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時に本人やご家族が望む暮らしを聞き、必要な情報を聴取しながらご本人に合ったサービスを見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員の生活の場であるという意識をもって、本人の希望を聞きながら食事作りをしたり、日々の生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、生活記録などで本人、ご家族、職員と関わりをもって連絡、相談をし、信頼関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人などからの手紙や電話等に協力し、支援している。馴染みの場所への外出の希望があれば、対応している。	数名の利用者に対し友人、知人の来訪があるが、現在は新型コロナウイルスの影響で面会自粛という状況が続いている。収束後にはまた連絡を取り再開予定である。そのような中、手紙のやり取りをされている利用者が数名いる。また、2ヶ月に1回、顔馴染みとなった訪問美容師の来訪があり、利用者も楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し、コミュニケーションを図っている。新聞読みや雑談を通し共通の話題を提供したり、席替えや入浴順序などの工夫で楽しく過ごして頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話で、その後の様子を聞いたり、またホームへのお立ち寄りの声掛けをしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の望んでいる事や、気持ちを把握し、本人や職員と検討し実現出来る様、努めている。又、困難な場合でも可能な限り、本人の希望に近づくことができるよう検討し努めている。	ほとんどの利用者は意思表示の出来る状況であるが、難しい方も数名おり、行動や表情から把握すると共にジェスチャーも交えながら提案を行い、意向を受け止めるよう取り組んでいる。衣類にこだわる利用者も多くいるので居室にていくつか提案し、一緒に選び、本人の希望に沿えるようにしている。日々の気づいた言動等は個人記録に纏め、職員間で情報を共有しきめ細かな支援に取り組んでいる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用されていた施設等からの情報提供や、ご家族との面談による情報入手、また日常の会話の中からも情報収集し、職員全員に説明し共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、朝礼、終礼にて職員が把握している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望を伺い、本人の現状と合わせた介護計画を作成している。課題についてはケア会議で各自意見を出し合い検討している。	職員は1~2名の利用者を担当し居室の整理整頓、生活記録の作成、消耗品の確認・補充等を行っている。カンファレンスの席上、個人記録を中心に気づいたことを話し合い、また、モニタリングもを行い、家族の意向も電話にて伺いケアマネジャーがプラン作成を行っている。プランの見直しは基本的には3ヶ月に1回行われ、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者にあったケアに取り組んでいる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、記録として個々の様子や言動の事実、気付いたことを記録し、申し送りにて情報共有し、見直しが必要な場合には話し合いをして実践に繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健の相談員や、理学療法士、栄養士等に意見をもらい、取り組んでいる。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、各家庭での行事に参加している。また散歩をしながら近所の公園、田畑などで地域住民との会話を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとり、訪問診療、24時間対応をしているが、本人や家族の希望ある時は、主治医に紹介状を書いてもらい、通院にも付き添っている。	入居時、医療機関についての希望を聞いているが、現在は全利用者が法人クリニックの月2回の往診で対応している。また、週1回訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理に合わせ医師との連携も取り、24時間対応の医療体制が整えられている。歯科については必要に応じ協力歯科に職員が同行している。更に、月1回、併設老人保健施設の歯科衛生士の来訪があり口腔ケアにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導をもとに、毎日の健康チェックを行い利用者の状態を把握し、クリニック、訪問看護、薬剤師と相談しながら受診を受けられる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護情報を提出し、経過はご家族、又は病院のソーシャルワーカーより聞き、連携室と連絡をとり合い、退院後の支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針について説明している。重度化の状態によりその都度、ご家族と話し合いを行い、ホームで出来る事、出来ないことを説明し同意を頂いている。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。食事が摂れなくなり終末期に到った時には家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合いの場を持ち家族の意向を確認の上、医師から話をいただき、改めて看取り同意書にサインも頂き、ホームとして出来る限りの支援に取り組んでいる。この1年以内に2名の方の看取りを行い、家族より感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健の救命救急内部研修で学んでいる。またホーム独自でも、セクション会議の場で皆で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、防災訓練(日中、夜間)を想定し、実施している。また推進会議にも地域の消防団員の参加もあり、意見を頂いている。災害に備え、お米・水など備蓄もしている。	春と秋、年2回、防災訓練を実施し、うち1回は消防署員の参加を得て実施している。昨年の台風19号の災害状況を踏まえ、水害想定避難訓練に重点を置き行っている。水害想定では1階の利用者を2階へ移動し、施設の周りの状況を確認しての訓練を実施している。法人として防災意識の向上に努めており、消火器を使つての消火訓練、通報訓練なども行い、夜間想定として緊急連絡網の確認と2階より非常階段を使つての避難指導を消防署員より受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は必ずノックし、本人の了解を得てから入室している。尊厳を守り、分かりやすく丁寧な言葉掛けをしている。	言葉遣いには特に気を配り、親しき中でも礼儀を重んじ、利用者との信頼関係を築けるよう心掛けている。トイレ介助には特に気を遣い、人前では声掛けしないよう気を付けている。居室でのプライバシー確保に配慮し、入室中にはドアは閉め、入室の際にはノックと声掛けを必ず行うようにしている。呼び掛けは人生の先輩として尊敬の念を込め、苗字に「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの声掛けを多くし、本人の思いや、望みを話しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や1日の流れはあるが、利用者の気持ちを優先し、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声掛けをし、身だしなみが出来ている。訪問美容師により、本人の希望のヘアカットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する事全て、出来る事を見極めて、職員と一緒にやっている。献立も希望により変更したりしている。	新型コロナウイルス禍の中、食事を楽しんでいただけるよう「食」に力を入れている。ほとんどの利用者が自力で食事が出来る状況で、職員と話をしながら楽しいひと時を過ごしている。献立は法人の管理栄養士が立てたものをアレンジして調理している。お手伝いは利用者の力量に合わせ野菜の下処理等に参加していただいている。「おはぎ」「ぼた餅」が好きな利用者が多く、お彼岸を楽しみにしている。誕生日には好きな料理とケーキでお祝いし、敬老会には「てまり寿司」などをテイクアウトし楽しんでいる。また、秋には恒例の「野沢菜漬け」を全員で漬け、お茶の時間などに味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に基づいた、バランスの良い食事を提供出来ている。状態に応じた食形態の食事提供もできている。飲み物は好みのものを聞き、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受け、毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態、義歯の状態を把握し、清潔保持出来る様、支援している。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の利用者の様子や時間で、適切なトイレ誘導や声掛けで、排泄で不快を感じる事のないよう支援している。	自立している方が三分の二強で、一部介助の方が三分の一弱という状況である。入居時に聞いた内容、排尿や排便の状況を健康チェック表として纏め、情報の共有に繋げている。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しているが、行動や様子を見て早めにトイレ誘導を行い、スムーズな排泄に繋げている。また、起床時、食事前、体操前、就寝前等にも定時の声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で個々の排便の有無を確認し、水分補給や体操をしている。また主治医に相談し、内服薬にて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回で入浴日も決まっているが、希望があれば、他の階での入浴も可能となっている。入浴剤や季節を感じてもらえる物を入れている。歌を唄うなど入浴を楽しんでいる。	浴室の湯船が深く全利用者が職員二人での介助が必要となっている。基本的に週2回、入浴を行っている。弱い入浴拒否の方が若干名いるが浴室まで工夫をしてお連れし入浴に繋げている。季節の入浴剤を使用したり、「菖蒲湯」「ゆず湯」等も行い、ゆっくり入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加の声掛けをしているが、自由に休息はとってもらい、体調などに合わせ寝具、居室環境の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明書を確認し、体調管理をしている。体調不良や内服薬に変更があった時は、必ず申し送りや連絡ノートで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から何をしたいか、好きな食べ物は何か等聞いたり、感じ取ったりしながら楽しみごとを探って、満足感を得られる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症で面会、外出が思うようにできていない。今年は、電話・手紙・写真などの提供と出来る事で支援している。	新型コロナウイルス禍の中、外出の自粛状況が続いている。天気の良い日には外気浴も兼ね施設の敷地内を散歩している。今年度は外出が難しい分、利用者のストレスが溜まらないよう、毎月、職員が工夫を重ねホーム内での行事を考え取り組んでいる。誕生日会には職員手作りのケーキでお祝いし、敬老会には食事に合わせ職員の出し物を楽しみ、10月の運動会では「お菓子釣り」「ボール投げ」「ポッチャ」等で体を動かし楽しい1日を過ごしている。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており、必要な時は本人と一緒に買い物に行き、希望があれば会計、支払いをしてもらっている。職員が代わりに買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話し合い、手紙や電話の取次ぎ等、希望に添った支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境に努めている。室温、湿度に注意し、快適に過ごせるよう、冷暖房にて調節している。季節に合った飾りつけをしたり、花を植えたりと、季節を感じてもらっている。外出時の写真を貼るなどしている。	開設から20年目を迎えた当ホームであるが整理整頓が行き届き清潔感が漂っている。玄関を入るとシクラメンやコスモスの花が飾られ季節感が感じられる。ホールには季節の飾り付けや利用者の作品、日々の様子を写した写真が数多く飾られ、日々の暮らしの様子を窺うことができる。そのような中、職員の新聞の読み合わせに耳を傾ける利用者を見ることできた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人が思い思いに過ごしている。会話などから笑い声も聞かれている。自由に休息したり利用者同士で雑談したりと笑顔や笑い声も聞かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の馴染みの物を、置いてもらっている。本人や家族と相談し、希望に沿っている。	居室入りロドアには毎月付け替えられる職員手作りの季節に合わせた「折り紙アート」の作品が飾られている。居室内は職員が毎朝掃除を行い清潔感が保たれている。陽当たりが良く明るい居室には洗面台と大きなクローゼットが完備され、暮らし易いように工夫がされている。そのような中、家族の写真や好きなスイーツに囲まれ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士の出来る事、分かる事を思いやる気持ちを大切にし、安全な生活への自立支援に努めている。		